

## ☆☆☆ 朝 礼 講 話 ☆☆☆

2月17日（月）

### 『 公(おおやけ)と私(わたし) 』

講話 教務主任 黒岩 靖



自分が小学生だった時期に、先生から叱られた経験の中で、未だに忘れられないことが二つあります。

一つは、5年生の時でした。社会科の授業の最中に、兵庫県の「尼崎（あまがさき）」という地名を、「あまがちゃき」と言ってひどく叱られました。本当の読み方を知らなかったわけではなく、もちろん、ふざけて言ったからです。教科の中で、一番社会科が好きだった私は、社会科の授業には「のりのり」でした。楽しいものだからつい調子にのり、先生の質問に対して、指名されたわけでもないのに勝手に答えを言ってしまったのです。しかも、ふざけ半分で……。 「あまがちゃき」とおどけた私の声をさえぎるように、先生の指示棒（黒板を指し示すために持っていた竹の棒）が、一番前に座っていた私の机の上を、「びしっ」と叩きました。そして、「黒岩、授業は自分だけのものか！ ふざけるんじゃない！！」という大声が、教室中に響き渡りました。



二つ目は、6年生の学級会の場でのことです。修学旅行のグループを決めるための話し合いをしている時に、担任の先生から、「みんなのことを決めるのに、個人的な友だち関係を持ち込むんじゃない！ おまえ達は、なんて自分勝手なんだ！！」と怒鳴られました。

当時私には、クラスの中に仲のよい友人が二人いたのですが、その二人と同じグループになりたいばかりに、全てのグループがうまく決まらずみんなが困っている中で、私たち三人は、自分たちにとってかなり都合のよい言い分を主張しました。それを聞いていた先生の一喝でした。



小中学校時代を通して、先生に叱られた場面はもっとたくさんあったのですが、なぜこの二つだけを鮮明に覚えているのかというと、叱られた原因に共通点があるからです。

「自分だけのもの」・「自分勝手」—今となっては恥ずかしい限りですが、確かに私は、それぞれの場面で、自分のこと、自分（とその仲間）の都合や損得ばかりを考えて、ものを言ったりやったりしていました。周囲の状況や自分以外の人たちの立場や気持ちに、気遣いや心配りができていませんでした……。

6年の時の担任の先生は、私たち三人を一喝した後、私たちを別室へ連れて行って、『公』と『私』というような内容で話をされました。要約すると、「学

校や学級というようなみんなが『集団生活』をおくっている『公』の場に、『私』＝『個人的な都合』を持ち込んではいけません。『公』と『私』のけじめをつけなさい。みんなのことを絶えず意識できるようになりなさい」ということでした。『公私混同』（『公』と『私』の区別がつけられないこと）という言葉がありますが、思えば先生は、それを厳しく戒められたのでしょ

う。さて、十東小のみなさん。みな皆さんは、私と同じような「過ち」をしてはいないでしょうか。授業中つい調子によって勝手なことを言ってみたり、自分たちの都合ばかりを言い張ったり、他のみんなに迷惑がかかっていること、みんながいやな思いをしていること、困っている人がいることに気付かないで行動したりしてはいないでしょうか……。

私は、「公」と「私」の区別について考えることができるようになって、随分精神的に成長することができたような気がします。



## 選挙出前授業

17日（月）に、5・6年生が弥富市選挙管理委員会の方に、『選挙出前授業』を行ってもらいました。



最初に、「なぜ選挙が必要なのか」「選挙の種類や仕組みは」など、選挙についてわかりやすく説明してもらいました。続いて、模擬選挙体験をしました。事前に立候補者の公約などが書いてある選挙公報と選挙の入場券を配布してもらい、それを持って参加しました。そして、立候補者役の方の演説を聞きました。「週に1時間、自分の好きな教科を選んで授業受けることができるようにします」「朝食を食べることができなかった人のために、朝から開いている食堂を作ります」など、それぞれの公約を聞いてどちらの人に投票するか考えました。その後、本当の選挙で使うアルミ製の投票箱や記名台を使って投票をしました。「受付」「選挙立会人」「選挙管理人」もあり、実際の投票所を体験することができました。全員投票終了後、「その日の一番に投票する人だけ体験できることは」「得票数が同じ場合は、どのように決めるか」などの選挙クイズに挑戦しました。



最後に選挙管理委員会の方から、「今日の経験を生かして、成人したら必ず投票してください。また、家でも話し合ってください」という話を聞いて選挙出前授業を終わりました。

この様子は、クローバーテレビで19日（水）のデイリートピックス、22日（土）からのウィークリートピックスで放映されます。